



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2026年4月

販促・魅力発信

- 3月11日～17日の7日間、東京都中央区の松屋銀座にて、相双機構の主催で、**福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店した。**
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者等15社の商品56品を販売。**また、マルリフーズの「かけるあおさ」や岩下商店の「おさかな天」などの試食を実施した。
- さらに今回は、「ふくしま常磐大漁市」としては初の取組として「常磐もの日替わり提供コーナー」を設置し、福島県の水産加工事業者による店頭での試食提供及び対面販売を実施した。
- 開催期間中は多くのお客様にご来場いただき、各種メディアにも取り上げられた。お客様からは、本催事が震災から15年、3月11日からの開催であったことから発生当時を振り返るお声、また「タコが美味しい。」「福島を応援したいから買いに来た。」などの応援のお声を多くいただいた。
- 店頭に立たれた水産加工事業者の方からは「催事出店は4年ぶりであり、久しぶりの対応ではあったが、新鮮な気持ちで取り組むことができた。」「銀座という立地での販売は貴重な機会であり、大きな一歩となった。」「今後の商品提案や販売方法の参考となる有意義な機会となった。」など、前向きなご意見をいただいた。

ふくしま常磐大漁市 in 松屋銀座（東京都中央区）



会場の様子



試食の様子



水産加工事業者の店頭販売（トーチン）

- 北米最大級で世界三大水産専門見本市の1つと称される「Seafood Expo North America 2026」（2026年3月15日（日）～17日（火）、於：米ボストン）には、50カ国から1,215社が出品、20,000人以上が来場した。この機会を捉え、ジェトロはジャパンパビリオンを設置し、各国から集まるバイヤーとの商談機会を提供した。
- **ジャパンパビリオンには茨城県の3社・1団体を含む、全23社・団体が水産品・水産加工品などを出品。**北米のみならず、中南米や欧州、アジア、アフリカなど世界各地のバイヤーから引き合いがあり、**複数の出品者に大口の商談が入った。**

北米最大級の水産専門見本市「Seafood Expo North America 2026」にジャパンパビリオンを設置

■「Seafood Expo North America 2026」ジャパンパビリオン概要

- ・日程:2026年3月15（日）～17日（火）
- ・会場: Thomas M. Menino Convention & Exhibition Center(米国・ボストン)
- ・参加者数: 茨城県3社の水産・水産加工事業者を含む23社・団体
- ・水産品・加工品：冷凍たこ、生うに、まぐろ、ホタテ貝柱、ぶりフィレ、真鯛フィレ等
- ・商談件数:249件

■主な評価

- ・北米および中南米のバイヤーが多かったが、その他にも欧州、アジア、アフリカなどのバイヤーも来場しており、世界各地のバイヤーと商談できた。
- ・アメリカの新規バイヤーの開拓はもちろん、他国からの引合いも多数いただいたので、帰国後フォローアップしたい。日本産水産物の販売に役立つ事業であった。
- ・多くの引き合いがあった。最近の原料価格高騰から、今後更に値上げが懸念されている中での引合いは日本食の成長と認知度が更に高まってきた証。輸出する立場としても意欲が湧く機会であった。



ジャパンパビリオンの賑わい



商談風景

理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載**。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を処分しなければならぬの？
- 本当に海洋放出しても大丈夫なの？
- 近海でとれた魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

- ※最新の各機関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

周辺の海の状態はどうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

海水や魚は大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？



- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2026年4月4日、5日に開催された「夜の森桜まつり」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

(参考) 原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年4月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：2026年度ALPS処理水の海洋放出計画）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2026年4月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/ℓ)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内(港内を除く)

20km圏内

| | エリア | 海水の測定結果【単位:ベクレル/ℓ】 (2026年3月1日～3月末までに得られた測定結果の最大値) |
|-------------------|--------|--|
| トリチウム [迅速測定**] | 3km圏内 | 9.6 |
| | 20km圏内 | 検出せず(<8.5) |
| セシウム134** | 3km圏内 | 検出せず(<0.93) |
| | 20km圏内 | 検出せず(<0.0014) |
| セシウム137** | 3km圏内 | 検出せず(<0.98) |
| | 20km圏内 | 0.013 |

【参考】トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/ℓ

| | |
|--------|--------------------------|
| 60,000 | 国の規制基準(排水口)** |
| 10,000 | 世界保健機関(WHO)飲料水水质ガイドライン |
| 700 | 放出停止判断レベル**2(発電所から3km以内) |

「<」の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は「<」の表示となる。

*1:トリチウムの放出下限値をリットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る装置

*2:福島県周辺海域における過去の最高濃度は、セシウム134/セシウム137:0.0028ベクレル/ℓ～0.45ベクレル/ℓ

〇:採取地点(海水) 定期的に採水し、放射性物質濃度を測定。

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、**重要な変動は確認されていません。**

詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/monitoring/>

包括的モニタリング

当社以外の各機関(環境省、水産庁、原子力規制庁)および水産物の放射性物質濃度も**重要な変動は確認されていません。**

詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できます。
<https://www.monitororbs.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.55

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・地盤水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と観光の興立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

2026年度のALPS処理水の海洋放出は、全8回を計画しており、安全・着実に進めてまいります。

▶ 2025年度の海洋放出は、計画通り(全7回)、安全に実施しました。

▶ 2026年度は、**放出回数:全8回、放出水量:約62,400ml、トリチウム放出量:約11兆ベクレル**を計画しています。

| 年度 | 回数 | 処理水の放出量 | トリチウム総量 [年間放出基準:] 22兆ベクレル | トリチウム以外の放射性物質の濃度 | 希釈後のトリチウム濃度** [取組の基本方針で示された 海洋放出のトリチウム濃度の上限] 1,500ベクレル/リットル未満** | 海水のトリチウム濃度のモニタリング結果 [迅速測定**] | |
|--------|----|-----------|---------------------------------|--|--|---------------------------------|---------------|
| | | | | | | 発電所から3km以内 | 発電所正面から10km四方 |
| 2026計画 | 8回 | 約62,400ml | 約11兆ベクレル | 最新の状況は「処理水ポータルサイト」でご覧いただけます https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/ | | | |
| 2025実績 | 7回 | 55,011ml | 約16兆ベクレル | 年間測定比率**4 0.083~0.24 < 1 | 最大500 ベクレル/リットル | 最大61 ベクレル/リットル | 検出せず |

●ALPS処理水の海洋放出は、引き続き、安全性を確保しながら、計画的に進めてまいります。また、その情報を正確かつわかりやすい形で国内外に発信してまいります。

【参考】トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/ℓ

| | |
|--------|--------------------------|
| 60,000 | 国の規制基準(排水口)** |
| 10,000 | 世界保健機関(WHO)飲料水水质ガイドライン |
| 700 | 放出停止判断レベル**2(発電所から3km以内) |
| 350 | 調査レベル**3(発電所から3km以内) |
| 20 | 日本全国の海水**4 過去の実測範囲 |
| 0.043 | |

*1:70年程度、原子力発電所の排水口から出る水。毎日、その濃度が約2回は飲み続けられた場合に、年間での摂取量が1シーベルトの値にとなる濃度から求めた濃度の概算値

*2:政府の運用としてALPS処理水の海洋放出を停止する指標

*3:海洋放出停止レベル**1に達する前の期間における濃度測定値を指す

*4:品質|日本の環境放射線と健康(国研:2019/4~2022/3)

ALPS処理水の放出実績についてはこちらをご覧ください
 ▶【放出実績】
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/performance_of_discharges/

各機関が公開した海域モニタリングのデータはこちらをご覧ください
 ▶【包括的モニタリング調査システム(ORBS)】
<https://www.monitororbs.jp/ja/index.html>

皆さまのご意見をとお聞かせください
 ▶【廃炉に関するご意見・お問い合わせ】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
 福島第一廃炉推進カンパニー
 〒979-1301 福島県東茨城郡大原町大字大原2-22